

令和 8 年度

第 1 回 滝川市地域包括支援センター運営協議会

(書面会議)

次 第

議 事

- 1 令和 8 年度 第 1 回滝川市地域包括支援センター運営協議会
報告内容要旨 (P1～P2)
- 2 令和 7 年度 滝川市地域包括支援センター事業報告 (P3～P12)
- 3 令和 7 年度 認知症初期集中支援チーム活動報告 (P13)
- 4 令和 7 年度 地域ケア個別会議実施報告 (P14～P15)
- 5 令和 8 年度 滝川市地域包括支援センター事業計画 (P16～P24)
- 6 令和 8 年度 滝川市地域包括支援センター事業予算概要 (P25)
- 7 令和 8 年度 地域密着型サービス事業者公募結果について (P26～P27)

令和8年度 第1回 滝川市地域包括支援センター運営協議会 報告内容要旨

令和7年度 滝川市地域包括支援センター事業報告について

- ・総合相談については、ほぼ前年度並みの件数となっている。予防計画作成実績は件数が増加、手すりや歩行器など、福祉用具を利用している人が多い傾向にある。一般介護予防事業のますますげんき教室は、地域の体操教室への参加が難しくなった人を中心に参加者が増えており、介護認定申請手前の通所サービスとなっている。その他の会議、研修会については、予定通り実施できた。
- ・認知症事業としては、認知症本人とサポーターからなるチームオレンジが主体的に考え参加できるよう、バスレクレーションの行き先や内容など、計画するところからチームオレンジで話し合い実施した。勉強会では美唄市のチームオレンジメンバーをお招きし、他自治体のチームオレンジの活動に触れる機会を設けた。
- ・自立支援サポート会議については、福祉課職員も交代で見学に参加。今年度から、最後に見学者からも発言の機会を設けたが、それぞれの立場からの発言でより内容を深めることができた。頻尿・便秘など、排泄に関する薬やサプリメントを使用する高齢者が多いため、排泄の薬に特化した内容で在宅医療介護連携研修会を開催、関係者の学習する機会とした。

令和8年度 滝川市地域包括支援センター事業計画について

【地域ケア会議について】

- ・近年、頼れる身寄りのいない高齢者が増えており、病院や施設への入院入所の際の身元保証や、亡くなった後の葬祭、死後事務に困る場合が多くなっている。これまでの自立支援サポート会議の回数を減らし、その分を課題解決型の地域ケア個別会議として、事例を通して関係者間での課題の共有、他自治体の取組などの情報収集、取組へ向けての検討など可能な範囲で進めていく。

【認知症事業について】

- ・認知症本人が参加し自由に話せる場を定例で設けることを目的に、月1回「カフェなかよし」を開催する。ネーミングも参加メンバーで決め、チームオレンジの中の数人のコアメンバーが職員と共にカフェの運営や企画に携わり、将来的にはコアメンバーだけでも運営できる形を目指す。
- ・空知自動車学校と連携して、高齢者が安全な運転を継続できるような介護予防と、もし運転継続が難しくなった場合は速やかに免許返納に繋がるよう、正しい知識の普及啓発を目的に研修会を開催する。
- ・認知症普及啓発イベント「おれんじフェスタ」は、これまで3回開催し、若い世代や子ども達など多世代が参加するイベントとなったが、認知症の普及啓発の効果についての判断が難しく、一旦休止とした。それに伴い、高校生と高等看護学院学生がイベント内容の企画・準備・運営を行い、認知症の理解と多世代交流を図る「ケアLabo」も休止する。

【生活支援体制整備事業について】

- ・地域支援事業実施要綱改正により、大きく方向転換がなされており、滝川市としての今後の体制について検討が必要な時期に入っている。介護支援専門員と連携した虚弱者や要支援者に対するニーズと取組のマッチング、地域資源の発掘・開発につなげる必要性あり。地域の担い手の発掘並びに介護事業所支援として、軽作業に従事できるボランティアを発掘、希望する介護事業所とのマッチングを行えるようボランティアセンターと連携し行う。

【介護予防支援事業所について】

- ・市内の介護保険事業所の事務負担軽減にも繋がるため、できるだけ早期にケアプランデータ連携システム導入を進めたい。増加する件数に対し、記録の事務負担の軽減につながるようなICT機器の活用を検討、情報収集や試用の機会を設けていく。

【いきいき百歳体操について】

- ・市内を 4 地区に分けて、「いきいき百歳体操交流大会」を開催していたが、4 地区全てでの開催を終え、会場や送迎の確保、人員体制等を含めて検討した結果、交流大会の開催は休止する。90 歳参加者の表彰は継続して行い、各会場へ出向く形とする。

令和 8 年度 滝川市地域包括支援センター事業予算概要について

- ・全般的な予算額の増加は、人事院勧告に基づく人件費の増加分が主な理由となっている。
- ・介護支援専門員（会計年度任用職員）の人件費の計上科目を変更したため、各事業で増減となっている。
 - 介護予防・日常生活支援総合事業 介護予防ケアマネジメント
 - 介護支援専門員 4 名分の人件費計上
 - （令和 7 年度は 2 名分計上。他の 2 名分は介護予防支援事業所で計上）
 - 介護予防支援事業所
 - 主任介護支援専門員 2 名、介護支援専門員 1 名 3 名分の人件費計上
 - （令和 7 年度は主任介護支援専門員 2 名分は包括的支援事業で計上し、介護支援専門員 3 名分計上）
- ・介護予防サロン事業は、「地域カフェ絆」を運営していたライフサポート運営委員会が解散し、今年度の申請予定団体が減ったため減額となっている。

令和7年度 滝川市地域包括支援センター事業報告

◎ 介護支援係

1. 総合相談支援

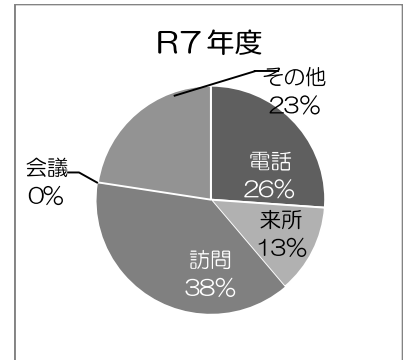
高齢者が住み慣れた地域で、安心して生活を継続できるよう介護サービスにとどまらない、保健医療福祉機関又は制度の利用につなげる等の総合的な支援を行った。

(1) 相談件数（単位：件）

7年度	2,282
6年度	2,204

(2) 相談形態（単位：件）

	電話	来所	訪問	会議	その他	合計
7年度	596	289	880	2	515	2,282
6年度	624	300	852	3	425	2,204



(3) 相談者区分（単位：人）

	本人	家族	民生委員等	地域団体	医療機関	警察	実態把握	その他	計
7年度	216	327	62	172	106	36	1,308	55	2,282
6年度	260	339	55	205	157	31	1,118	39	2,204

(4) 相談内容区分（重複あり）（単位：件）

	介護日常生活相談	医療に関する相談	権利擁護相談	実態把握	介護予防事業	苦情相談	SOS関連	その他	計
7年度	883	95	36	1,311	9	0	7	144	2,485
6年度	950	140	29	1,121	25	2	3	165	2,435

(5) 対応内容区分（重複あり）（単位：件）

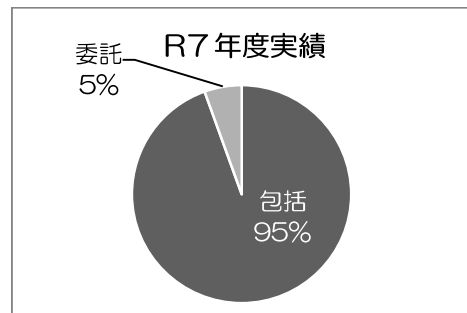
	相談・情報提供	ケース会議	連絡調整	家庭訪問	申請代行	SOS関連	調査訪問	その他	計
7年度	1,370	19	829	567	73	1	1,148	147	4,154
6年度	1,534	21	1,036	602	61	1	1,095	128	4,478

2. 介護予防ケアマネジメント事業

要支援1・2、事業対象者がより自立した生活を送れるために、適切な介護予防サービス等が提供されるよう、予防サービス計画を作成した。

(1) 予防計画作成実績 (単位: 件)

	包括	委託	合計
7年度	6,814	396	7,210
6年度	6,557	425	6,982

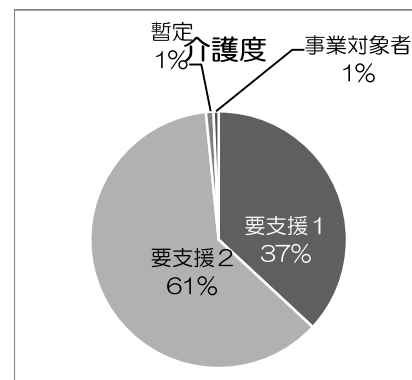


令和7年度指定介護予防支援・介護予防委託業務事業所 (R8年3月末現在)

- ・有限会社 ケア・コラボレートK・H
- ・医療法人社団 青藍会クリニック
- ・医療法人 翔陽会 滝川脳神経外科病院
- ・社会福祉法人 滝川市社会福祉事業団
- ・社会福祉法人 滝川市社会福祉協議会
- ・特定非営利活動法人 縁 (釧路市)

(2) 介護度 (単位: 人)

	要支援1	要支援2	暫定	事業対象者	合計
7年度	2,660	4,435	68	47	7,210
6年度	2,549	4,303	84	46	6,982



(3) 担当者会議開催数 (単位: 回)

7年度	781
6年度	767

3. 一般介護予防事業

(1) ますますげんき教室

閉じこもり・うつ予防や運動機能向上のため、週1回の外出の機会を設けた。
通所により運動機能向上・栄養改善・口腔機能向上、人との交流を図った。

ますますげんき教室参加者数 (単位: 回・人)

	開催回数	実人数	延人数
7年度	78	31	855
6年度	78	32	761

新規通所者内訳 (単位: 人) 通所開始理由

	本人から	家族から	知人・近所から	関係機関から	実態調査から	計
新規通所者	3	1	1	3	1	9

ますますげんき教室通所者の経過 (単位: 人)

	7年度	6年度	
改善	2	1	地域体操教室への参加
介護認定	1	4	介護認定へ移行
辞退	2	1	体調不良
維持	26	26	次年度も通所継続
合計	31	32	

(2) 市民出前講座

(単位：回・人)

	開催回数	参加者数
7年度	2	30
6年度	4	59

第1回 6月11日 認知症の症状と接し方
民生委員児童委員連合協議会 14人

第2回 10月25日 認知症の基礎知識、心構え、対応等について
中空知退職校長会会員 16人

(3) 介護予防サロン事業

高齢者の健康の維持、要介護の予防につながる住民主体の通いの場の開催者に対し、高齢者の参加人数に乗じた補助金を交付し、開催の支援を行った。

	ライフサポート運営委員会		リボーンの会	
	開催回数	参加者数	開催回数	参加者数
7年度	149	2,409	225	4,911
6年度	175	3,307	212	5,309

4. 包括的・継続的ケアマネジメント支援事業

地域の介護支援専門員の指導や支援のほか、高齢者が住みやすい地域にするため、関係機関とのネットワークづくりを行った。

(1) ケアマネージャーの相談窓口

加算事業所と合同で定例のケース会議を開催し、困難事例への対応を検討した。

ケース会議実績 (単位：回・件)

	回数	検討事例
7年度	4	4
6年度	5	5

対面で事例検討会を行う。

その他、随時、ケアマネージャーからの相談に応じている。(相談支援4事例)

(2) 関係機関ネットワーク会議

2か月に1回全てオンラインで開催し、ミニレクチャーや情報交換を行った。(年6回開催)

関係機関ネットワーク研修会を開催した。

実施日	テーマ・講師	参加者
8月1日	講義：生活困窮者の暮らしを支えるために知っておくべきこと～生活困窮支援の現場より～ NPO法人コミュニティワーク研究実践センターそらち生活サポートセンター理事長・所長 穴澤 義晴氏	32人

(3) 在宅医療・介護連携推進事業

在宅医療と介護連携に関する地域の課題を抽出し、その対応策を検討することを目的に、市内の医療・介護に関する関係者が集まる推進会議を年1回(書面会議)開催した。

多職種連携で早期から口腔ケアを促す「口腔・栄養アセスメントシート」の集計結果、滝川市の医療介護連携の実施状況について報告した。

介護福祉関係者が医療について学ぶ機会として、在宅医療介護連携推進研修会を実施した。

実施日	テーマ・講師	参 加 者
11月19日	講義：高齢者と薬について～排泄に関わる薬との付き合い方～ (有) エス・ワイ・シーすみれ調剤薬局 管理薬剤師 阿部 亮太氏	47人

(4) 滝川市高齢者見守り安心ネットワーク

関係機関、団体、民間事業者など 123 機関の協力を得て、社会全体で見守り意識の向上を図った。

(5) 滝川市高齢者・障害者虐待防止ネットワーク代表者会議

障がいと合同のネットワーク会議を2月20日開催。現状報告と事例報告を行った。

(6) 生活支援体制整備事業

高齢者が増加する中、多様な生活支援・介護予防サービスを利用できるような地域づくりを目指し生活支援コーディネーターが生活支援体制整備事業の基盤づくりとして、他地域のコーディネーターとの情報交換やオンライン研修会への参加、認知症事業への協力・参加、地域の通いの場へ出向いての情報収集を行った。また、高齢者との交流を望む大学・専門学校生と地域の通いの場・認知症事業をつなぐ学生ボランティア「チアフル」、介護・看護に興味のある市内高校生と高等看護学院1年生が、認知症普及啓発イベントの企画・準備・運営を通して、認知症への理解・他世代間の交流・イベント企画のスキルアップをはかる「ケアLabo」を実施した。

江部乙地区第2層協議体では、住み慣れた地域で安心して暮らすことを目的に「乙な集い」を実行委員会と共同で開催した。(108人)

生活支援コーディネーター活動状況(単位：回)

	生活支援体制整備事業							認知症総合支援事業		合計
	1・2層協議体	3層通いの場情報共有ほか	地域相談・情報共有	他市町村・庁舎内など情報共有	学生ボランティア・高看連携事業	会議・研修	情報発信	事業・会議・研修ほか	情報発信	
7年度	48	136	9	16	84	401	9	183	6	892
6年度	24	123	6	40	75	233	10	273	11	795

5. 認知症対策関連事業

(1) 物忘れ相談・物忘れ相談プログラムによる認知症チェック

認知症普及啓発月間や年金支給月に合わせて、物忘れ相談プログラムを活用し、物忘れの自己チェックや認知症に関する知識の普及啓発を図った。物忘れが気になる方や病院に行くほどでもないと思っている方などに、予約制の個別相談を行い、より詳しいプログラムを実施したほか、必要に応じた受診勧奨を行った。(来所相談 49人 地域相談 9人)

(2) 国民健康保険・後期高齢者脳ドック検査事後訪問

国民健康保険・後期高齢者医療保険加入者を対象に行う脳ドック検査受診者のうち、要再検・精検者又は長谷川式簡易知能評価スケール 24 点以下の人に対し、訪問を実施したほか、軽度認知障害(MCI)に対応するため 25 点、26 点の人に対し電話による状況確認を行った。

脳ドック検査事後結果(単位：人)

	検査実施数	事後対象数	確認結果		
			治療	経過観察	受診勧奨
7年度	120	17	2	9	6
6年度	123	24	2	9	6

(3) 認知症カフェの開催

認知症の方やその家族、地域住民、専門職が気軽に集まり認知症や介護について意見交換できる「認知症カフェ」の運営支援を行った。市内の家族会、地域ボランティア団体が月1～2回開催。グループホーム、サービス付き高齢者向け住宅は新型コロナウイルス感染拡大後、実施を見合わせている。

認知症カフェ実施数（単位：回・人）

	カフェあけぼの		駅カフェ・陽だまりカフェ	
	回数	人数	回数	人数
7年度	24	442	23	666
6年度	24	344	24	659

7年度合計 回数 47回 参加数 1,108人
6年度合計 回数 48回 参加数 1,003人

(4) 認知症啓発月間活動

9月21日の世界アルツハイマーデーに合わせて、9月を認知症啓発月間と位置づけ、認知症普及啓発イベント「おれんじフェスタ」を開催した。(238人参加)
認知症について理解を深めるためのセミナーを実施した。

実施日	テーマ・講師	参加者
11月7日	講義：若年性認知症を理解するセミナー 講師：ほっかいどう希望大使（認知症本人大使）松本健太郎氏、 砂川市立病院認知症疾患医療センター精神保健福祉士 大辻誠司氏	163人

(5) 認知症サポーター養成講座

認知症について、研修を修了したキャラバン・メイトが、認知症についての理解と地域での見守り支援の普及啓発の為、認知症サポーター養成講座を実施。地域の会場では、物忘れ相談プログラムと組み合わせて実施。また、これまで講座を受講した人の学びを深める場、並びにチームオレンジ参加を勧奨するステップアップ講座については、チームオレンジメンバーが一定数に達したため、今年度は開催を見送った。

認知症サポーター養成講座実施数（単位：回・人）

	開催回数	受講者数
7年度	4	143
6年度	5	136

※H18～4,070人養成

ステップアップ講座実施数（単位：回・人）

	開催回数	受講者数
7年度	0	0
6年度	1	20

(6) オレンジ倶楽部

認知症サポーター養成講座を受講した方の中で、希望者に対し「おれんじ通信」を発行し、認知症の知識や認知症に関する活動の紹介を実施した。実際に何かの活動をしたいと思う方には、チームオレンジ参加を勧奨した。

(7) チームオレンジ

認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座を受講し「認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを目指して、認知症ご本人やご家族と一緒に考え楽しむ活動」に参加を希望された方を対象に活動を行った。

活動内容

- ①介護をされている方を対象とした「介護者サロン」
- ②介護サービスにつながっていない若年認知症の方、高齢者の軽度認知症の方を対象とした「コミュニティ農園・畑楽」
- ③若年性認知症の方、高齢者の軽度認知症の方を対象とした本人の会「すまいる」
- ④認知症月間、普及啓発の準備
チームオレンジ便り（月1回発行）
チームオレンジ研修会を開催した。

実施日	テーマ・講師	参加者
12月5日	「美唄市おれんじカフェぴばの活動」 美唄市地域包括ケア推進課飛渡祐揮主査、チームオレンジボランティア 谷川英子氏、藤田千恵子氏	21人

(8) 認知症本人の会「すまいる」

若年性認知症や軽度認知症の方を対象に、物忘れが心配な方同士が互いの経験や現在の思いなどを共有し、本人のやりたいことの実現を目指し、認知症本人の会を開催した。

「すまいるゴー」としてバスレクレーションを実施。(1回開催)企画・事前準備からメンバーが参加。

(9) コミュニティ農園畑楽^{はたらく}

介護サービスにつがっていない若年性認知症の方と高齢者の軽度認知症の方とご家族を対象としたコミュニティ農園を実施した。

	内容	本人	ボランティア	包括	他課	計
第1回	苗植え	4	22	6	4	36
第2回	菊茶摘み	4	13	7	4	28
第3回	調理試食	5	18	6	0	29
第4回	野菜収穫	3	13	6	0	22
第5回	野菜収穫	4	9	6	3	22
第6回	野菜収穫	4	14	6	2	26
第7回	野菜収穫	0	10	5	3	18
	計	24	99	42	16	181

(10) 滝川市見守りキーホルダー

認知症によって行方不明となるおそれのある高齢者などの安全を確保し、ご家族や介護する方の負担を軽減することを目的に「見守りキーホルダー」の配布を行った。(令和7年度配布数18個)

(11) 滝川市認知症ガイドブック(認知症ケアパス)

認知症についての理解を深め、認知症のおそれがあるときには、正しく対応ができるよう、認知症についての情報を冊子にまとめた「滝川市認知症ガイドブック」の普及啓発を行った。

(12) 滝川市わんわんパトロール

犬の散歩をしながら、認知症高齢者を見守り、行方不明高齢者の早期発見につなげる「滝川市わんわんパトロール」の登録者に、散歩時に携帯してもらう「わんわんキーホルダー」を配布した。(登録者総数102人 うち令和7年度新規18人)

6. その他の事業

(1) 家族介護者の支援

介護者サロン

家庭で認知症等の介護を行う介護者に対し、介護に関する知識の提供及び介護者同士の交流を通し心身のリフレッシュ・介護者の疲れの軽減・介護者の悩みの軽減を図ることを目的に開催。介護者とは別室で被介護者を預かり、介護者が参加しやすい体制づくりに努めている。

介護者サロン実績(単位:人)

	介護者	被介護者	オレンジ倶楽部	その他	計	内容
第1回	8	3	13	8	32	ハンドマッサージ
第2回	8	3	13	6	30	蓄音機で音楽鑑賞
第3回	10	2	14	6	32	折り紙
第4回	8	2	14	6	29	モルック
計	34	9	54	26	123	

(2) 成年後見制度の申し立て支援(単位:件)

7年度	1
6年度	1

(3) SOSネットワークシステム(単位:人・件)

	登録者	検案件数
7年度	110	4
6年度	127	1

(4) 滝川市はいかい高齢者等位置探索システム助成事業（単位：件）

	申請数
7年度	0
6年度	0

(5) 高齢者虐待の相談支援（単位：件）

	相談件数
7年度	5
6年度	5

(6) 権利擁護に関する研修会（単位：人）

高齢者の健康増進・介護予防や権利擁護のための知識の普及を目的に研修会を開催した。

実施日	テーマ・講師	参 加 者
10月7日	講義：知っておこう!成年後見制度 滝川なのはな法律事務所弁護士 大根田 紫織氏	58人

(7) 地域リハビリテーション活動事業

作業療法士が中心となり、介護予防の取り組みを総合的に支援するために訪問、事例検討会、地域ケア会議等へ出席した。

◎ 介護予防係

1. いきいき百歳体操地域体操教室

	会場	回数(回)	参加者延べ人数(人)	サポーター延べ人数(人)
1	まちづくりセンター	52	1,255	383
2	スポーツセンター	41	601	182
3	扇町地区コミュニティセンター	44	615	212
4	農村環境改善センター	44	1,388	263
5	泉町福祉会館	42	395	243
6	西和会館	49	488	93
7	朝日町地区福祉ホーム	49	554	250
8	啓南団地集会所	49	408	110
9	東滝川地区転作研修センター	50	523	246
10	北地区コミュニティセンター	48	815	226
11	音楽公民館	49	613	335
12	三世代交流センター	43	657	200
13	幸町地区コミュニティセンター	49	670	204
14	江陵団地集会所	37	360	184
15	緑地区コミュニティセンター	49	433	245
16	みずほ団地集会所	50	482	202
17	朝日町7区町内会館	49	330	230
18	一の坂団地集会所	35	275	118
19	銀川団地集会所	50	553	171
20	一の坂会館	48	500	270
21	三世代交流センター北地区分館	45	983	319
22	11丁目福祉会館	46	585	215
23	中地区コミュニティセンター	51	676	272
24	東地区コミュニティセンター	48	823	383
25	見晴団地集会所	50	761	261
26	大町地区コミュニティセンター	47	434	202
	合計	1,214	16,177	6,019

2. いきいき百歳体操地域体操交流大会

内 容	表彰者(人)	参加人数(人)
いきいき百歳体操交流大会	1	74

3. いきいき百歳体操サポーター支援・学習会

内 容	回 数(回)	参加延べ人数(人)
いきいき百歳体操サポーター養成講座	2 回	39
サポーター学習会・スキルアップ講座	2回	108

4. 介護予防講座

内 容	回 数(回)	参加者延べ人数(人)
初心者向けウォーキング講座	1	48
自宅でできる筋力アップ講座	1	32
市民向け健康づくり講座「睡眠と睡眠薬について」	1	41
元気になれる食生活講座	1	36
ヘルシーエクササイズ番外編 おうちでできる筋力アップ講座	1	61
口腔ケア講座（老人クラブ等）	12	167
地域介護予防講座（いきいき百歳体操会場）	52	985

5. 介護予防出前講座

内 容	回 数(回)	参加者延べ人数(人)
団体・介護保険事業所等	5	99

6. 高齢者家庭訪問（介護福祉課作業療法士）

内 容	実人数(人)	延べ人数(人)
住宅改修・福祉用具等相談	130	213

7. 老人クラブ巡回相談（10 か所）（介護福祉課看護師）

内 容	延べ回数(回)	参加者延べ人数(人)
健康相談・健康教育	113	1,181

内 容	回 数(回)	参加者延べ人数(人)
初心者向けウォーキング講座	1	48
自宅でできる筋力アップ講座	1	32
市民向け健康づくり講座「睡眠と睡眠薬について」	1	44
元気になれる食生活講座	1	36
ヘルシーエクササイズ番外編 おうちでできる筋力アップ講座	1	61
口腔ケア講座（老人クラブ等）	12	167
地域介護予防講座（いきいき百歳体操会場）	52	985

令和7年度 認知症初期集中支援チーム活動報告

チーム員構成

認知症初期集中支援チーム員：認知症看護認定看護師(滝川市立病院看護師)
地域包括支援センター保健師・社会福祉士
認知症サポート医：滝川市立病院精神神経科医師
その他：認知症地域支援推進員、介護福祉課職員

1. チーム員会議の開催

表1 会議実施数(単位：回・件)

	回数	検討事例数
令和6年度	4	4
令和7年度	3	4

表2 事例の年齢構成(単位：人)

	男	女	合計
～69歳			
70～79歳	1	1	2
80～89歳		2	2
90歳～			
合計	1	3	4

表3 世帯構成(単位：件)

単身	高齢者 夫婦	その他	合計
0	2	2	4

※その他：配偶者・子・孫、子・孫

表4 相談経路(単位：件)

本人	家族(同居)	家族(別居)	知人・隣人	関係機関※	合計
0	1	2	0	1	4

※居宅(1)

表5 介入結果(単位：件)

認知症の診断に至った	1
介入時に診断あり	1
主治医のもとで経過観察	2
継続受診なし	0
合計	4

表6 その後の経過(単位：件)

チームでの支援終了	4
(内訳) 介護保険サービス利用	1
医療機関に入院	1
包括の継続事例として支援	2
継続支援	0

相談経路は家族が多く、相談機関として包括支援センターが認知されていたためと考える。

R7年度は家族同居の事例が多かったが、介護者である家族がいても、認知症の方への対応が分からず適切な介護がされていなかったり、家族からSOSを出せない事例がみられた。チーム員が介入し、適切な対応方法を助言したり、必要な支援機関に繋げる事で在宅継続が出来た事例も多いため、今後も関係者と協力して見守りを行い、注意して関わる必要があると考える。

今後も情報をキャッチしたらチーム員で訪問し、介入のタイミングが来たら速やかに対応できるようにしていきたい。

2. 普及・啓発活動

地域包括支援センターのパンフレットに、認知症初期集中支援チームも含めた認知症関連事業を掲載し、関係機関に配布する他、高齢者実態調査等の事業を通して市民に配付。「認知症に関する相談は地域包括支援センターへ」を繰り返し伝えている。

令和7年度 地域ケア個別会議実施報告

1. 地域ケア個別会議

(1) 参加者

本人、民生委員、町内会長、訪問介護事業所、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター

(2) 地域ケア個別会議の開催

表1 会議実施数(単位：回・件)

	回数	検討事例数
7年度	1	1
6年度	1	1

表2 事例の年齢構成(単位：人)

	男	女	合計
80歳代	1	0	1
合計	1	0	1

表3 世帯構成(単位：件)

単身	高齢者夫婦	その他	合計
1	0	0	1

表4 検討課題の分類(重複有)(単位：件)

①個別課題の解決	1
②ネットワーク構築機能	1
③地域課題の発見	0
④地域づくり・資源開発	0
⑤政策形成につながりそうなもの	0

独居高齢者。体調を崩し何度か救急搬送を繰り返している。頼れる身寄りがなく、異変に気づけない可能性あり。地域住民と関係者が情報共有を図りながら見守る。担当ケアマネージャーが情報の集約先となることを確認。

2. 自立支援型地域ケア会議

(1) 参加者

〔事例提供者〕 地域包括支援センターおよび市内居宅介護支援事業所介護支援専門員

〔専門的助言者〕 薬剤師・理学療法士・作業療法士・歯科衛生士・栄養士

〔関係者〕 地域包括支援センター管理者・主任介護支援専門員・生活支援コーディネーター
地区担当保健師・保険者（介護福祉課介護保険係・介護認定係・高齢者福祉係）

〔事務局〕 司会・書記

〔オブザーバー〕 地域包括支援センター職員・市内介護支援事業所等

(2) 自立支援型地域ケア会議の開催

表 1 会議実施数(単位：回・件)

	回数	検討事例数
7 年度	10	20
6 年度	11	22

表 2 事例の年齢構成(単位：人)

	男	女	合計
60 歳代	0	0	0
70 歳代	1	2	3
80 歳代	6	9	15
90 歳代	1	1	2
合計	8	12	20

表 3 世帯構成(単位：件)

単身	高齢者夫婦	その他	合計
10	8	2	20

表 4 介護度

支援 1	支援 2	介護 1	介護 3	合計
4	10	5	1	20

要支援者のサービス利用者を中心に、自立支援や介護予防の観点を踏まえ高齢者のQOL向上に結びつけることを目的としているが、課題に対する専門職からの助言により、支援者および参加者全体の資質向上につながっている。

令和8年度 滝川市地域包括支援センター事業計画

1. 介護予防の推進と実態把握

住み慣れた地域でいつまでも健康で暮らせるよう要支援・要介護になる前からの介護予防を推進する。

介護予防に関する啓発や虚弱高齢者の把握や早期発見を行う。

2. 総合相談

介護サービスにとどまらない、地域における適切な保健・医療・福祉サービス、関係機関との連携または制度の利用等の総合的な支援を行う。

3. 認知症総合支援事業

認知症予防の普及啓発、早期発見と対応、認知症になっても安心して暮らせる取組を行う。

4. 権利擁護支援

高齢者が安心して暮らせるために、成年後見制度の紹介や虐待を早期に発見し、消費者被害防止など必要な援助を行う。

5. 包括的・継続的ケアマネジメント支援

主治医や介護支援専門員、地域の関係機関等の連携、在宅と施設の連携など多職種相互の協働等による連携を行う。

地域における個々の介護支援専門員に対する個別指導や相談、困難事例への指導助言、医療機関を含む関係機関や様々な社会資源との連携・協働の体制整備を行う。

6. 地域ケア会議

個別ケースの課題分析等を積み重ねることにより、地域に共通した課題を把握し、地域づくり、資源開発を目指す。

7. 介護予防支援事業所・介護予防ケアマネジメント

介護保険の要支援1・2の認定者・事業対象者に介護予防支援サービス計画・介護予防ケアマネジメントを作成する。

本人の状況に応じたサービス計画を作成し、事業所や関連機関との調整を行い、生活支援を行う。

8. 在宅医療・介護連携推進事業

地域における医療・介護の関係機関が連携して、包括的かつ継続的な在宅医療・介護を提供する体制を整備する。

9. 生活支援体制整備事業

地域における支え合いの体制づくりを整備する。市町村が中心となり、元気な高齢者をはじめとする多世代の地域住民が担い手として参加する住民主体の活動団体、地域運営組織、NPO法人、社会福祉法人、社会福祉協議会、地縁組織、協同組合、民間企業、シルバー人材センター、介護サービス施設・事業所、老人クラブ、商工会、民生委員等の多様な主体による多様な生活支援・介護予防サービスの提供体制を構築し、地域の支え合いの体制づくりを推進していくことを目的とする。

1. 介護予防の推進と実態把握

一般介護予防事業

①介護予防把握事業

介護予防対象者を把握し、相談事業や情報収集しながら適切な介護予防事業につなげる。

- 75 歳以上健康実態調査

75 歳以上で介護サービスを利用していない在宅高齢者に対して、基本チェックリストによる健康調査を行い、虚弱高齢者を発見し、介護予防事業へつなげる。虚弱な高齢者には再度地域包括支援センター職員が状況確認を行い、必要な相談対応へつなげる。健康調査に入る前に、地区の民生委員と情報交換し連携していく。

- 介護予防事業を通しての把握

事業参加者に対して、基本チェックリストを実施する。

- 本人や家族からの窓口や電話での相談
- 主治医や民生委員など関係機関や地域からの情報提供
- 要介護認定における非該当者の情報

②介護予防普及啓発事業

- 介護予防講座（一般市民向け）

地域住民が要介護になりやすい疾患やフレイルについて正しく理解し実践することにより要介護への移行を抑える。

初心者向けウォーキング講座、運動と認知症予防講座

睡眠と睡眠薬について、シニアの元気になれる食生活講座（低栄養予防）

- 介護予防講座（いきいき百歳体操参加者向け）

いきいき百歳体操参加者が、健康維持のための知識やフレイルについて正しく理解し実践することにより要介護への移行を抑える。

フレイル予防、高齢者口腔ケア教室、低栄養講座、人生会議ミニ講座、いきいき百歳体操おさらい会、介護保険サービスの利用方法、その他ミニ講座

- ますますげんき教室（委託事業）

虚弱高齢者を対象に三世代交流センターにて、週1回以上の外出機会をつくり運動機能向上、栄養改善、口腔機能向上、閉じこもり予防やうつ予防などの事業を行う。

週2回開催（水・木）のいずれかの曜日1回 通所（年80回）

各利用者に対し、体力測定等評価し健康状態を確認する。

- シニア向け運動プログラム「元気アップ」（委託事業）

高齢者の介護予防と健康増進を目的として、運動開始のきっかけづくりと運動の継続のために運動教室を実施。

年2クール（1クール12回）

運動実技（筋力・転倒予防）、介護予防ミニ講座

- 介護予防出前講座

一般高齢者を対象に、介護予防に役立つ基本的な知識の普及・啓発を行う。地域の団体からの依頼をうけて、健康や介護・福祉の講座を行う。

- 老人クラブ巡回健康相談

滝川市老人クラブ連合会に所属する会員に対して、看護師が巡回し血圧測定を含めた健康相談と健康教育を行う。（16か所中11か所実施）

③介護予防活動支援事業

- いきいき百歳体操（地域体操教室）

地域住民が集まって主体的に、いきいき百歳体操（運動器の向上）とかみかみ百歳体操（口腔機能向上）に取り組み交流することで、高齢者が自ら介護を予防するための教室を継続して実施できるよう支援する。

実施会場の支援（26か所）、新規教室開催の支援

- いきいき百歳体操サポーター養成講座

いきいき百歳体操を支援するサポーター（ボランティア）を養成、基本的知識や実技を学ぶとともに、介護予防の普及啓発を行う。

※介護事業所職員も対象とする。

年2回 1回3日間コース

- いきいき百歳体操サポーター学習会

いきいき百歳体操サポーターの介護予防や各会場運営についての情報交換年1～2回実施。

④地域リハビリテーション活動支援事業

理学療法士・作業療法士が中心となり、通所・訪問・地域ケア会議・サービス担当者会議・住民運営の通いの場等の介護予防の取り組みを総合的に支援する。

⑤介護予防サロン事業

高齢者の健康の維持、要介護状態の予防につながる住民主体の通いの場の開催者に対し、高齢者の参加人数に乗じた補助金を交付し、開催を支援する。

⑥介護予防・生活支援サービス事業

要介護状態等となることを予防するため、歯科衛生士や栄養士が訪問し、口腔ケアや栄養状態の改善を短期集中的（3～6か月）に行う。

- 短期集中訪問型サービス C（口腔ケア・栄養改善）
自立支援型地域ケア会議等で必要と判断されたケースに対して、介護支援専門員がケアプランを立案し、歯科衛生士・栄養士の訪問を計画的に行い、アセスメント、評価し、早期対応に努める。

2. 総合相談

①高齢者や家族、地域で暮らす人々が、地域で安心してその人らしく生活できるように介護、福祉、健康、医療に関する様々な情報提供や相談支援を行う。

- 地域で抱える困難事例の相談をうけ、様々な関係者とネットワークを図る。
- 把握した情報収集を基に個別訪問や地域で孤立している高齢者、重層的な課題を抱えている世帯などの高齢者・家族の相談を受ける。
- 各種制度の説明や申請の代行を行う。
- 各病院・医院等と連携し、在宅生活について総合的支援を行う。

3. 認知症総合支援事業

①認知症予防の普及啓発事業

- 認知機能低下予防の考え方や日常生活で取り組みやすい効果的な認知機能低下予防対策など認知症に関する知識の普及啓発を行うため、依頼に応じた出前講座等も含めた普及啓発活動を実施する。9月の認知症月間には、市役所ロビー展示やDVD上映などを実施する。
- 空知自動車学校と協力し、安全運転の継続と危険運転の早期発見・対応を目的とした市民向け研修会を開催。また、学校内にパンフレットを配置するなど、市役所以外での相談・普及啓発の場を設ける。
- ほっかいどう希望大使 横山弥生氏をお迎えして、若年性認知症普及啓発コンサートを開催。
- 犬の散歩をしながら、認知症高齢者等の見守りを行う「わんわんパトロール」を呼びかけ、協力してくれる「わんわんサポーター」を登録し、登録者には散歩時に着用するキーホルダーを配付する。

②認知症予防事業

- 認知症予防教室の全市的な展開を図るため、介護予防講座や地域体操教室を活用し、認知症予防講座を実施。日常生活の中で参加者が持続して取り組めるような認知症予防メニュー（歩行、人と会う、対話、音読等）を紹介、介護予防効果とともに認知症予防効果を高める。

③認知症初期集中支援チーム

- 認知症が疑われる人や認知症の人及びその家族を訪問し、観察・評価、家族支援などの初期の支援を包括的、集中的に行い、自立生活のサポートに取り組む。

④認知症予防支援グループ「チームオレンジ」

- 認知症予防活動や認知症本人・家族支援に関心を持ち、認知症サポーター養成講座・ステップアップ講座を受講した市民と、認知症本人が、認知症について正しく理解し、認知症があってもやりがいを持っていきいきと生活が続けられるよう、普及啓発活動や本人家族支援活動を行う。

⑤物忘れ・認知症相談

- 予約制で、物忘れ・認知症の個別相談を実施。認知症の不安や心配がある方、物忘れは気になるけど病院に行くほどでもないという方などにタッチパネルで簡易に物忘れの兆候を測定する「物忘れ相談プログラム」（簡易 5 分・通常 20 分）を来所相談の他、訪問による相談により実施する。

⑥認知症サポーター養成講座・ステップアップ講座

- 認知症を正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守る応援者である「認知症サポーター」を養成する。
- 認知症サポーター養成講座受講者に対し、ステップアップ講座を行い、認知症についての学びを深めると共にチームオレンジ活動について周知する。

⑦認知症カフェの運営支援

- 認知症に関する情報交換や相談、認知症の知識の普及などを目的に、認知症の人と家族、地域住民、専門職等の誰もが参加できるカフェの運営を支援する。

⑧滝川市認知症高齢者等 SOS ネットワーク事業

- SOS ネットワーク事業の推進
1人で帰れなくなる恐れのある高齢者について登録し、関係機関や警察と連携を図ることで早期に捜索し保護する。登録者には、見守りキーホルダーを配付。
- 認知症高齢者等位置探索システム事業
認知症高齢者等の位置を確認するためのシステムに係る購入費用、初期の利用開始に伴う経費の一部助成。

⑨認知症ガイドブック（認知症ケアパス）の普及啓発

- 認知症の人とその家族に、生活機能障がい の進行に併せ、いつ、どこで、どのような医療・介護サービスを受けることができるのか、具体的な機関名やケア内容を提示するもので、その普及啓発に努める。

⑩介護者サロン

- 家族で認知症等の要介護者を介護している家族に対して、介護に関する知識の提供及び介護者同士が交流することで、「心身のリフレッシュ」「介護者の疲れの軽減」「介護の悩みの軽減」を図る。（年4回実施）

⑪介護者向け機関誌（おれんじ通信）

- 介護者サロンの報告や各種情報等を提供し、介護者の交流等を図る。

⑫認知症本人・家族への支援

- コミュニティ農園 畑楽（はたらく）
介護サービスにつながない若年性認知症や高齢者の軽度認知症の方を対象に、畑作業を通じて健康づくり、気分転換、交流、役割づくりにつなげる。
- カフェなかよし（チームオレンジの会）
認知症本人がチームオレンジボランティアと共に月1回定期的に集まり、自由に会話・交流できる場を開催する。
- 介護事業所、医療機関の協力を得ながら、認知症本人の発した声、思いを聞き、有効な対応について広く周知していく。
- 認知症本人・家族に向けての事業について、関係機関と連携し、必要な方へ情報が伝わるようにする。

4. 権利擁護支援

①認知症等で判断力がなく身内がいない高齢者が、身体や生活に障害がある場合、権利擁護に関する支援を行う。

- 成年後見制度の利用に関わる相談支援や、成年後見人申立ての費用等の助成を行う。

②成年後見支援事業

- 成年後見実施機関業務（滝川市社会福祉協議会委託）
成年後見制度に関する相談対応、普及啓発、市民後見人活動支援、関係機関との連携調整。運営委員会の実施、法人後見受任、市民後見人の活動支援、普及啓発。市民後見養成講座を受講した市民後見人に対するフォローアップ研修実施。

③滝川市高齢者・障がい者虐待防止ネットワーク

- 高齢者虐待に関する通報等情報収集を行う。
- 適宜支援会議を開催し、関係機関と連携することで適切な支援を行う。

5. 包括的・継続的ケアマネジメント支援

①地域の介護支援専門員の日常的な業務が円滑に行えるように支援する。

- ネットワークの構築
在宅・施設を通じた地域における包括的・継続的なケア体制の構築を行う。
- 医療・主治医との連携
医療機関を含めた関係機関との連携を行う。
- 事業所ネットワーク会議
地域の介護・医療・福祉の関係機関のネットワークを構築し、関係機関の情報交換や研修等を行う。（会議 2 か月に 1 回、研修会年 1 回開催）
- 相談窓口の設置
地域の介護支援専門員が抱える支援困難事例について適宜、具体的な支援方針を検討し、指導助言を行う。
- 地域の居宅介護支援事業所と小規模多機能型居宅介護事業所の介護支援専門員とで、困難事例等の事例検討を行い、資質向上を推進する。（年 3 回）また、情報交換会議を開催（年 2 回）

②高齢者見守り安心ネットワーク

- 企業・事業者と連携しながら高齢者を見守り、異変時の連絡・通報により、すみやかに対応するためのネットワークを進める。内容をホームページへ掲載。
- 令和 8 年度 ネットワーク会議（書面会議）開催予定。

6. 地域ケア会議

①地域ケア推進会議

- 地域包括支援センター運営協議会を地域ケア推進会議と位置付け、地域課題の把握・解決・地域づくり資源開発・政策形成を行う。

②地域ケア個別会議

- 当事者、家族、地域住民、保健医療・介護福祉等の専門職など、必要に応じて招集する。
- 個別ケースの支援方法を多職種で検討する事により、高齢者をはじめとする地域住民の課題解決を支援する
- 介護支援専門員の自立支援に資するケアマネジメントの実践力の向上を図る。
- 身寄りのない高齢者支援など、現在地域課題と思われる事例の会議を通じ、情報収集、関係機関との意見交換を行い、今後の方向性の検討へつなげるための課題解決へ向けた地域ケア会議を開催する。

③自立支援サポート会議（自立支援型地域ケア会議）

- 主に要支援の方に対して、自分の役割やできることを維持・継続するとともに、できそうなことができるようにし、健康的な気持ちや笑顔が増えるための支援を多職種で検討する。年 6 回開催する。

7. 介護予防支援事業所・介護予防ケアマネジメント

- ①介護保険の要支援１・２の認定者・事業対象者に介護予防支援サービス計画・介護予防ケアマネジメントを作成する。本人の状況に応じたサービス計画を作成し、事業所や関連機関との調整を行い、生活支援を行う。（一部居宅介護支援事業所に委託）

8. 在宅医療・介護連携推進事業

- ①医療ニーズと介護ニーズを併せもつ高齢者を地域で支え、医療機能分化の推進の動きに併せながら、在宅医療・介護連携のための体制の充実を図るため、滝川市医師会等の協力を得て、滝川市在宅医療・介護連携会議と医療・介護関係者の研修会を行う。

9. 生活支援体制整備事業

- ①生活支援コーディネーターは地域へ出向き、現状あるものや新規のもの等地域資源を把握する。地域包括支援センター職員と連携し、虚弱高齢者や要支援者が抱えているニーズに対し、地域資源とのマッチングや資源開発を行い、高齢者の自立支援に向けた介護支援専門員のケアマネジメントを支援する。
- ②滝川市全市を第１層、市内７つの地域を第２層とし、生活支援コーディネーターを中心に職員が担当地区を持ち、それぞれの地域に合った支え合いの体制づくりを考える。滝川支え合い会議（第１層協議体）は、各地区の情報共有・情報交換・連携強化の場として必要時開催する。
- ③東滝川、第二小学校区、江部乙の第２層協議体について、活動状況の把握と情報共有、行事（江部乙町高齢者の集い 乙な集い）を共同開催する。その他の地域でも、様々な団体・個人と情報交換し、関係する人達とのつながりを持つ。今年度は東地区の地域資源について情報収集を行う。
- ④近隣の生活支援コーディネーターとの情報交換、研修等を通じて、最新の動向や他自治体の活動についても情報収集を行う。
- ⑤ボランティアセンターと連携し、介護事業所での軽作業（見守り・お話し相手、行事のお手伝いなど）を中心とした、ボランティアの担い手と受け入れ先の発掘・マッチングを行う。

その他事業（健康づくり課・高齢者福祉係・介護認定係）

- ①住宅改修・福祉用具に関する相談・情報提供・連絡調整等の実施、助言、住宅改修費の支給申請に関わる支援を行う。
 - 住宅改修等訪問（介護予防係）
理学療法士・作業療法士が同行訪問し、住宅改修・福祉用具について指導助言を行う。
- ②一般高齢者に対する健康事業（運動・栄養・口腔）（健康づくり課）
- ③高齢者が住居する集合住宅を対象に、日常生活上の生活相談や安否確認、緊急時の対応支援を行う。
 - 見守り住宅（見晴団地）（高齢者福祉係）
安否確認をする。
- ④65歳以上の高齢者で低栄養のおそれがある方に食生活の改善のための支援を行う。
 - 食の自立支援事業（高齢者福祉係）
夕食を配達することで安否確認を行い、食事について栄養改善を行う。
- ⑤地域の高齢者が自立して日常生活できるように必要な支援を行う。
 - 生きがいと健康づくり（高齢者福祉係）
老人クラブを対象に、街頭花壇の整備など、ボランティア活動を実施する。
- ⑥虚弱で生活に不安のある高齢者を対象に安否確認を行う。
 - 友愛訪問サービス（高齢者福祉係）
一人暮らしの高齢者に対し、乳酸飲料を訪問にて届けることで安否確認する。
- ⑦重度の要介護者を在宅で介護する家族に対しての支援を行う。
 - 家族介護用品支給事業（介護認定係）
要介護3以上の排泄全介助の要介護認定者を在宅で介護している介護者に対し、おむつ購入のための介護用品購入券を交付。
 - リフト付きタクシー等利用料助成事業（介護認定係）
要介護3以上の寝たきり又は歩行困難で、移動にストレッチャーや車椅子を必要とする要介護認定者に対し、受診時のリフト付きタクシー利用のためのタクシーチケットを交付。
- ⑧支えあい・いきいきポイント事業（介護支援ボランティアポイント事業）
 - 40歳以上の方が市内の介護施設などでボランティアを行うとポイントが付き、たまったポイントを交換できる仕組みとなっており、ボランティア活動を通じて社会参加や地域貢献をすることで、ご自身の生きがいづくりや介護予防につなげることを目的としている。
 - 一般的なボランティアのほか、健康づくり活動として市内26か所で行われている「いきいき百歳体操」の65歳以上の参加者も対象としている。

令和8年度 滝川市地域包括支援センター事業予算概要

令和8年度介護保険特別会計（保険事業勘定予算）（職員人件費除く）

歳出

1. 新しい介護予防・日常生活支援総合事業

47,462 千円

（1）介護予防・生活支援サービス事業 21,533 千円

①介護予防ケアマネジメント

会計年度任用職員人件費（ケアマネ4名分）・健康診断・ケアプラン作成委託料等

（2）一般介護予防事業 18,200 千円

①地域リハビリテーション活動支援事業 2,934 千円 ②介護予防把握事業 3,678 千円

③介護予防講座 223 千円 ④老人クラブ巡回相談 4,641 千円

⑤高齢者運動推進事業 2,470 千円 ⑥ますますげんき教室 4,254 千円

（3）地域介護予防活動支援事業 7,729 千円

①いきいき百歳体操・交流会・サポーター養成講座 7,274 千円

②サロン補助事業 455 千円

2. 包括的支援事業（地域包括支援センター運営費）

24,398 千円

（1）包括的支援事業 4,768 千円

（総合相談事業、権利擁護事業、包括的・継続的マネジメント事業）

（2）包括的支援事業新規4事業 19,630 千円

（認知症関連事業、地域ケア会議、在宅医療・介護連携推進事業、生活支援体制整備事業）

3. 任意事業

5,544 千円

（1）任意事業 5,394 千円

（家族介護支援事業、認知症サポーター養成講座事業、はいかい高齢者等位置探索システム事業
成年後見制度利用支援事業）

（2）補助事業 150 千円

（権利擁護人材育成事業）

4. 保健福祉事業

3,732 千円

成年後見制度利用支援事業（社会福祉協議会委託費分）

令和8年度介護保険特別会計（サービス事業勘定予算）

介護予防支援事業所 歳入

1. 介護予防サービス計画作成費他

18,405 千円

（1）介護予防サービス計画作成費 18,357 千円、雑入 48 千円

※令和7年度 ケアプラン総件数 7,210 件（うち介護予防サービス計画 4,585 件）

介護予防サービス計画作成数 月 340 件 予定

※上記以外は、総合事業の介護予防ケアマネジメント事業（保険事業勘定）において作成

介護予防支援事業所 歳出

1. 介護予防支援事業所事業

18,405 千円

（1）会計年度任用職員人件費（ケアマネ3人分）

14,275 千円

（2）ケアプラン作成委託料・ASP 使用料・医療系保険者端末導入経費

3,208 千円

（3）その他研修会受講料、消耗品等

922 千円

令和8年度滝川市地域密着型サービス事業者公募結果について

本市では、「第9期滝川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画」に基づき、令和8年度に開設（整備）を予定する認知症対応型共同生活介護事業者の設置運営事業者を公募いたしました。

応募のあった事業者について、「滝川市地域密着型サービス選定職員会議」において、応募書類及びプレゼンテーション等による厳正な審査を行った結果、以下のとおり選定いたしましたので報告します。

1 公募内容及び応募業者

(1) 公募内容

施設種別	予定定員及び事業所数
(介護予防) 認知症対応型共同生活介護	定員 18 名 (2ユニット) : 1 事業所

(2) 応募業者 2 事業者

2 選定結果

選定事業者： 株式会社ビジュアルビジョン

代 表 者： 代表取締役 井沢 隆

法人所在地： 埼玉県上尾市上町1丁目1番14号

設置予定地： 滝川市北滝の川 1198 番地 102

3 選定理由

別紙の選定基準に基づき審査した結果、法人の財務健全性や他自治体における既存施設の運営実績が豊富であり、安定した質の高い介護サービスの提供が期待できる点、および地域との連携やプライバシーに配慮した施設設計の具体性が高く評価されたため。

【お問い合わせ先】

滝川市福祉部介護福祉課介護保険係

電話番号：0125-28-8026（直通）